

やはり温暖化なのか、例年より早く桜が満開となりました。当院はもともと海軍病院だったこともあり、院内には桜の木がそこかしこにあります。「患者さんもお花見ができるの良いのに」とも思いますが、昨今の忙しい入院生活では難しいですね。

さて、桜の季節は新生活の始まりでもあります。始まりの前には終わりもあるので、先日、研修修了式が執り行われました。2年間当院で過ごした先生、たすきで1年間をこちらで研修した先生、合わせて14名に証書を授与しました。

あと10日もすれば、本当の意味で主治医として診療にあたり、研修医を指導したりと、これまでとは違った生活になります。

この2年間で得た知識、経験、技術は、それに足るものに間違いありません。すぐにより高いところへ向かうことができるでしょう。遠くの病院や東京の大学へ移る人もいますし、当院に残って専攻医として診療に当たる先生も何人かいます。皆さん、即戦力として期待しています。

ニュースレターを読んでいる（うう、何人の方が読んでいるのかしら）方の多くは医学生の皆さんかな、と思っていますが、誰もが最初の2年間で本当に大きく成長できます。手前味噌ですが、当院の研修はその後押しができるもの、と思います。

本当はもう少し研修医の皆さんが「足りないかも…」と思っていることを洗い出せるような評価や面談を行うべきなのですが、これは私の努力が足りませんでした。いけませんね。COVID-19に翻弄された研修生活、楽しく食事や飲み会には制限も多いなど、いろいろ残念なところもありましたが、パンデミックを乗り切った研修医はスペイン風邪以来、100年ぶりと思ひましょ。う。（当時、研修医がいたかどうかは…）

研修修了証が授与されました。ちゃんと厚生局でちゃんと手続きしないと、仮免のままですよ。証書もなくさないでね。

